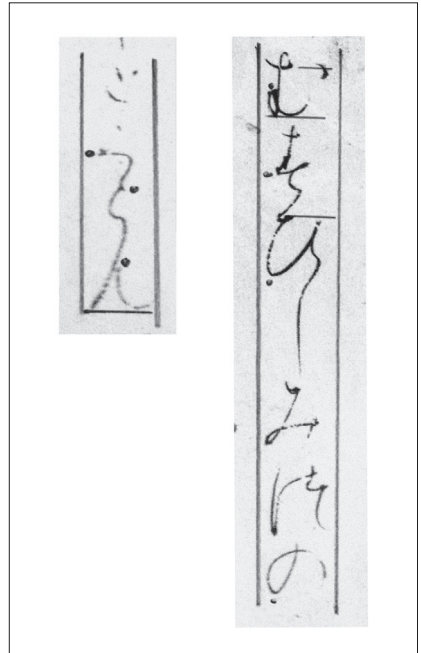


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料440円

- 1、字句「む春<sup>す</sup>ひしみ徒<sup>つ</sup>の とくらん
- 2、形式「半紙をたてにして小筆で七文字・四文字の二行に臨書する。落款は二行目の下に大きさを考えて「○○臨」と入れる。

- 3、概観「尾上柴舟に「和漢朗詠集はかな習得の正本」と言わせた今回の臨書課題。まずは字形の正本として多くの単体文字を取りあげようとした。今回の資料には鮮明さに欠ける部分があり、第一回・二回で学んだ字形や筆使いを応用してほしいと思います。又、課題の一行目と二行目の文字の大きさにも注意して臨書してください。
- 4、学習のポイント：単体を学び直すへその3)

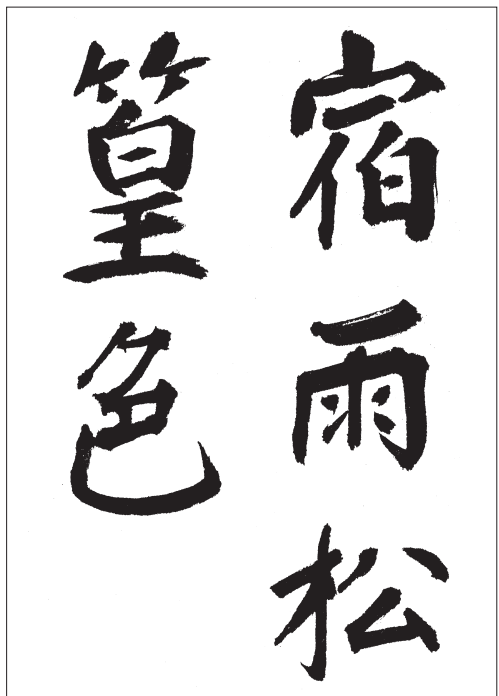
◎文字の大きさや幅にも注意して臨書する。『む』(・)で止めながら結びを書くが円形にしない。下線に注意し点に向かう。『春』軸を立て穂先を用紙に垂直にして運筆する。『ひ』(・)で軽く止めて右上にゆっくり引き上げる。収筆はゆっくり「し」に。『み・徒』「み」は既習、「徒」は応用。『の』(・)で軽く止まりゆっくり円を描くように運ぶ。この一行の文字の大きさや幅はほぼ同じ。『と』は既習。『く』(・)で当たり真横に運び収筆はゆるやかに「ら」へ向かう。『ら』(・)で突き返すようにして下へ。収筆は短めにして「ん」の起筆となる。『ん』(・)で当たり下へ運びながら収筆は右上へはらう。この一行の文字の大きさや幅は、一行目の半分位にする。



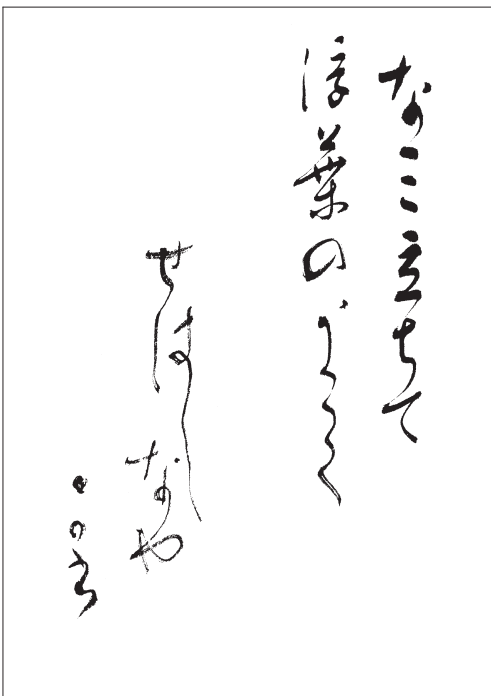
ぎよぶつ 御物 和漢朗詠集

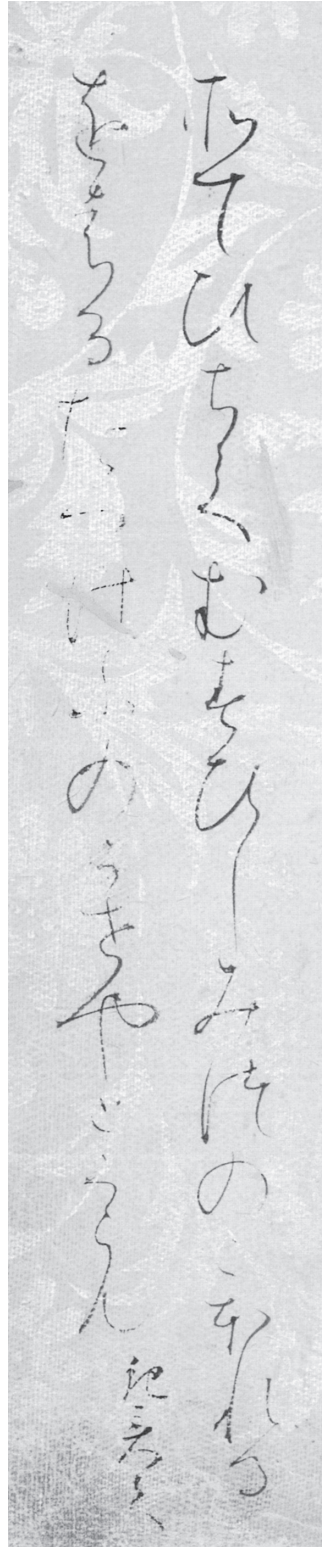
半 紙 課 題 (予 告) (七月二十二日締切)

平岡華雪先生書 宿雨松篁の色 (范成大)



訳：降りつづく雨には松や竹にみどりの色を添え  
平岡華雪先生書 波立ちて浮葉の動くせはしなや(虚子)





条幅随意部として

『所てひち弓む春ひしみ徒のこ本れるを者るたつけふの可世やとくらん』

と、半切二行に文字の幅と潤濁に注意して臨書すること。作者名は記入しない。落款は全体の調和を考えて「○○臨」と入れる。

※随意部参考(半紙・条幅)としてもご活用下さい。抜粋可。

条幅部は一枚目無料、二枚目から五五〇円。

バーコード券に「条臨」とご記入下さい。名簿は条幅部で「(臨)」と表示されます。

## 一字書 (六月二十二日締切)

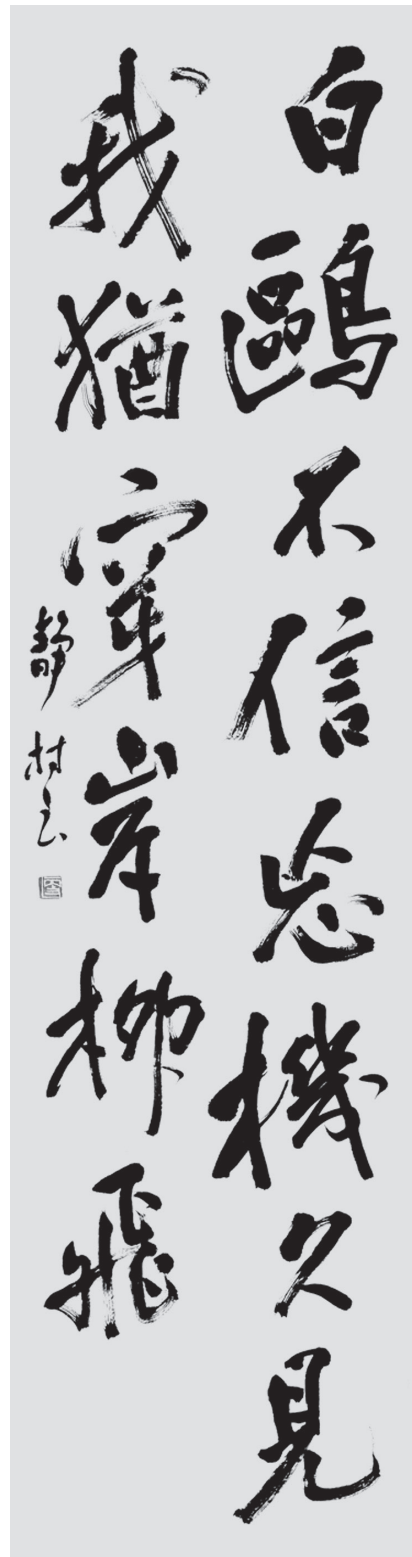
課題

# 楽

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に  
一字と記入 段級は無記入

A  
鈴木静村先生書

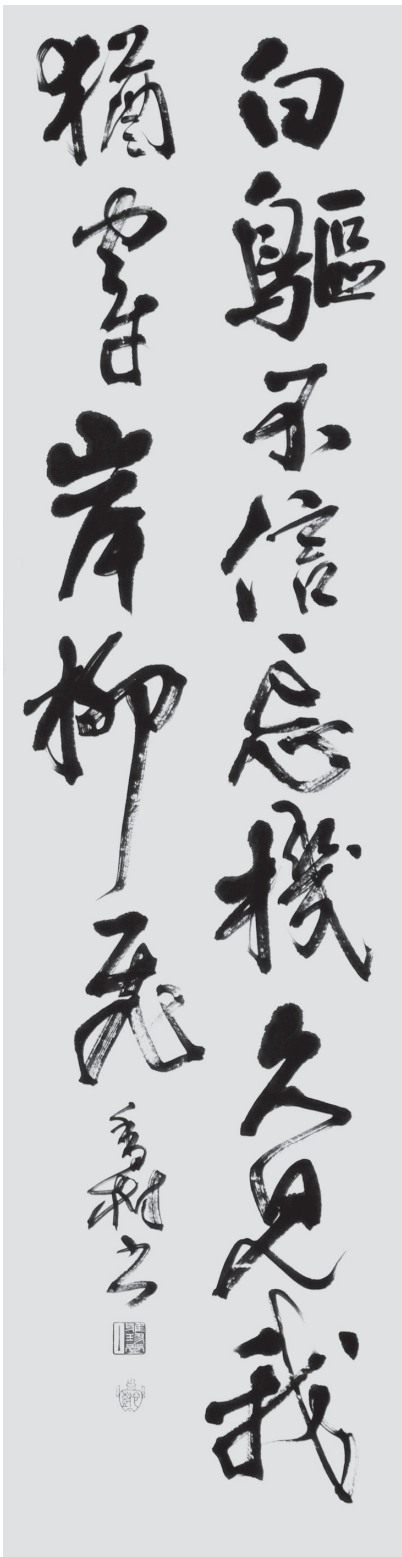
白鷗不信忘機久 見我猶穿岸柳飛 (司馬光)  
白鷗信ぜず忘機久しきを、我を見て猶岸柳なまを穿ぬって飛ぶ。



B

高橋香樹会长書

字間の連綿をなくし、行書の単体表現とした作。単体だからといって、一字々々を孤立させないこと。字形を練習の段階で頭にインプットさせ、筆を執ってからは緩急・抑揚のリズムを主調に一気に運筆することが基本。墨継ぎは機、穿、岸、白。左右の夕テ画を締める。信 偏の第一画は直線的に強く。忘 この書き方がよく使われる。左行は右行の文字と並立を避けた構成。我 長斜画が中心画、スキリと。点は高く舞うごとく。穿 冠を大きく、末画で安定を。飛 形がとりにくい字。概形を把握する。



今月は、「白」、「不信」を小字とし二行目を九字とした。月例課題は、滲みの弱い用紙を使用し、渴筆を極力抑えるようにしてきたが、今回は、滲みの強い用紙に、墨を少し淡くして潤渴の変化を試みた。「鷗」は、偏と旁を入れ替えた形が古典にあります。墨継ぎは「久」と「岸」。

訳：白い鷗は私が世俗のしがらみから久しく遠ざかっているのを信ぜず、私を見ると岸の柳をすりぬけて飛び去ってしまう。

予告 (七月二十二日締切)

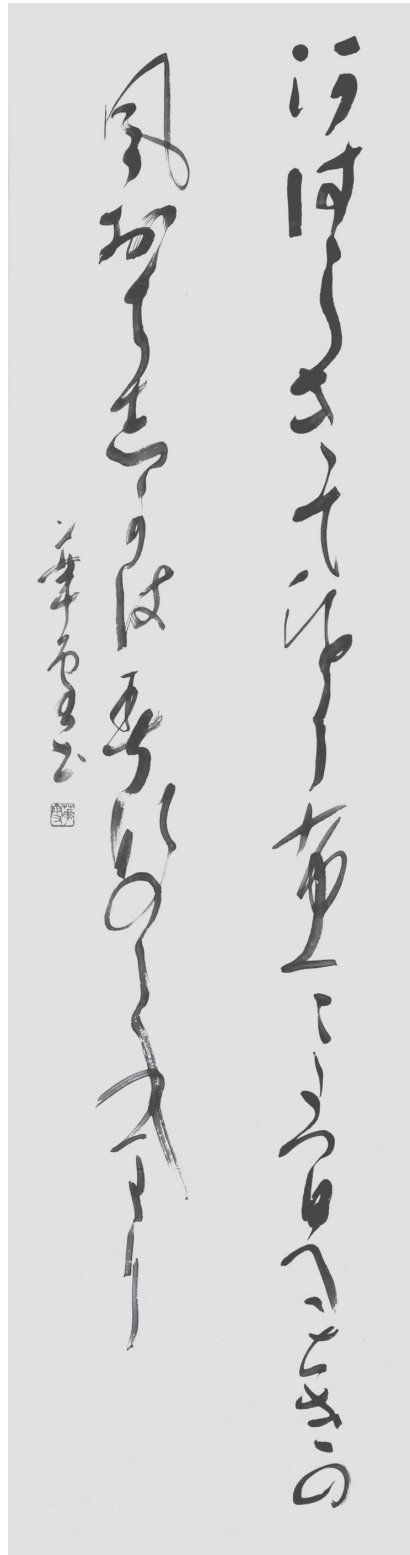
抽身朱墨塵埃裏

入眼山林氣味長 (楊誠齋)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

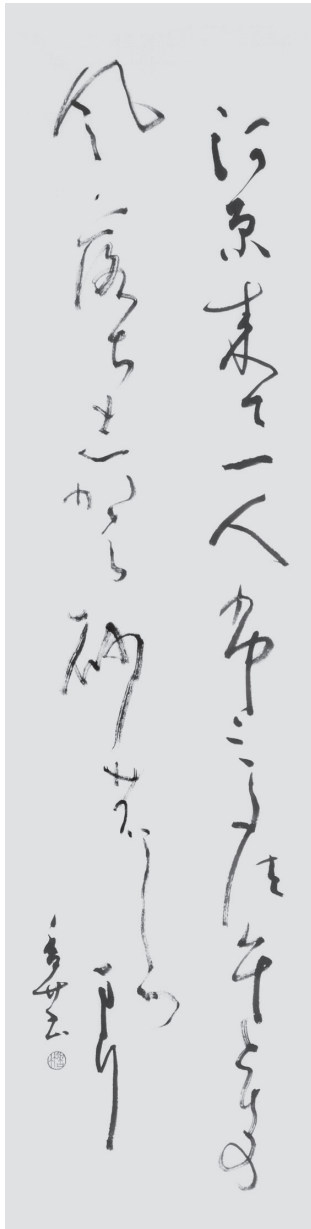
A  
平岡華雪先生書

河原来てひとり踏み立つ午どきの風落ちしかば砂のしづまり(宮柊二)  
河はらきてひとり布三多つ日るときの風おち志可は春那のしつ万里



B  
青柳香竹先生書

河原来て一人布三多徒午と支の風落ち志可者砂農し川万里



学び方

今回は大正生まれで、昭和に活躍した宮柊二の短歌です。  
なるべく変体仮名を使わずに仕上げました。変体仮名を少なく、連続もひかえることで、どう見せ場を作るかむずかしい仮名作品だと思います。  
二行目の「風落ち志可」に潤濁の変化を加えました。現代的な表現で、ある程度読めるよう工夫しました。下部が濁であり、字幅の変化を考え、「万里」で墨を入れ、安定させてみました。  
読みやすく、解りやすい歌ですので口ずさみながら書くかと思えます。

宮柊二：大正元年生まれ。北原白秋に師事する。白秋の助手、秘書として献身する。孤独感にとんだ暗い美しさは、歌壇の大きな注目を浴びる。会社勤務を退いてからの作品には、いっそう生命を凝視した、太ぶとした抒情のひろがりが見られる。『定本宮柊二全歌集』は毎日出版文化賞を受賞。生誕地新潟堀之内町に「宮柊二記念館」がある。

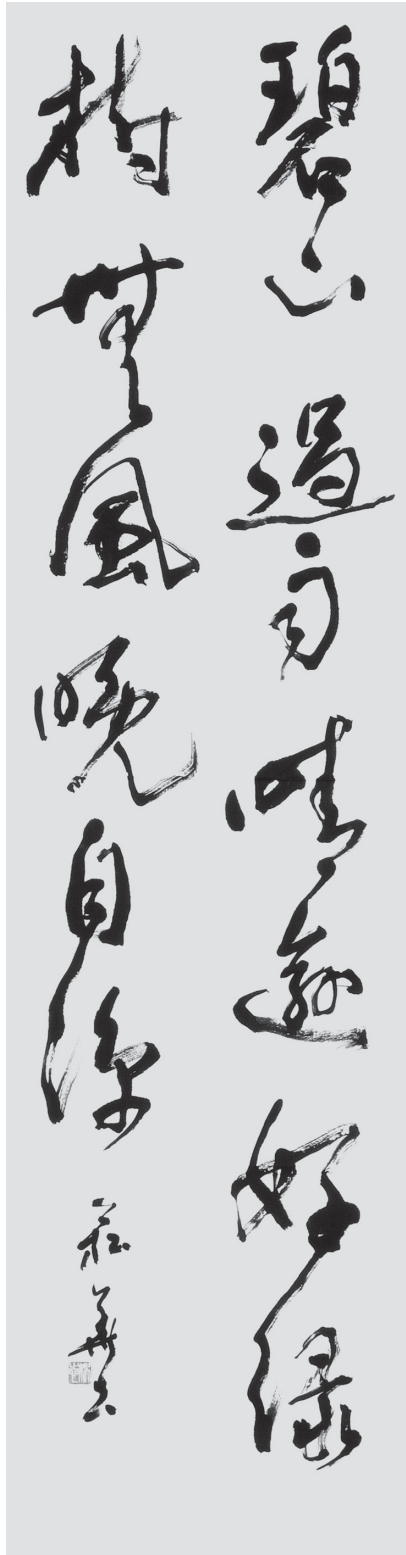
予告(七月二十二日締切)

大空のふかき緑のちかちかと迫るを覚ゆ山のいただき(尾上柴舟)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

小暮 崧華先生書

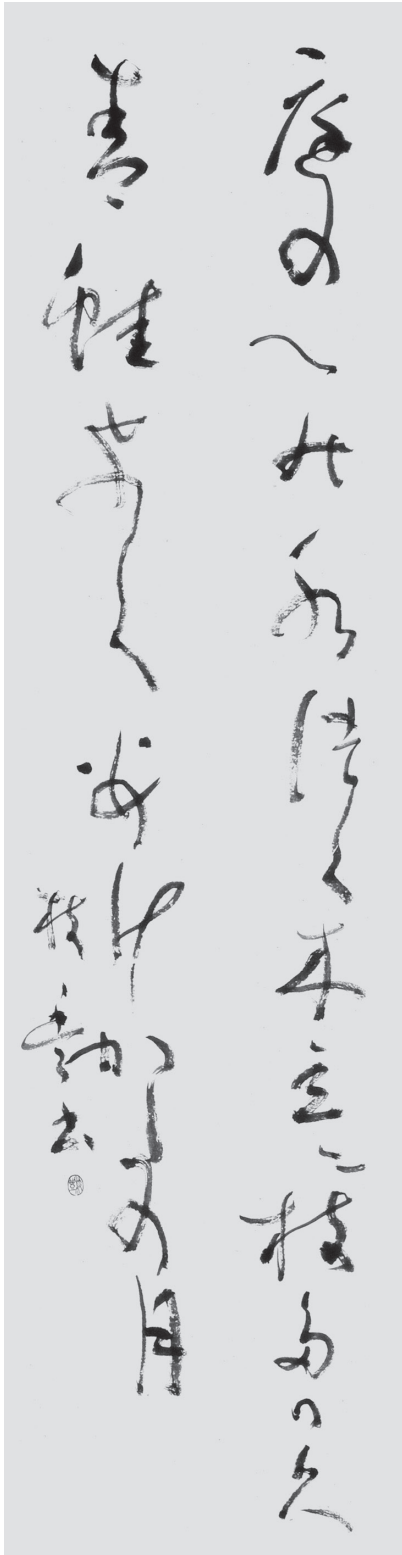
碧山過雨晴逾好 綠樹無風晚自涼（袁士元）  
 碧山雨過ぎ晴逾よ好く緑樹風無く晚に自ら涼し。



訳：青き山は雨後の景がひとしお好く、緑の樹木は風がなくても夕暮はおのずと涼しい。

鈴木 枝豊先生書

庭のべの水づく木立に枝たかく青蛙鳴くあけがたの月（伊藤左千夫）  
 庭のへ能水徒久木立二 枝多可久青蛙奈久安けか多の月



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

## 水貝潮華先生書

てふてふが一匹  
だん 韃靼海峡を渡って行った。

安西冬衛



今月の課題は、安西冬衛の詩集『軍艦茉莉』の『春』と題する有名な一行詩です。韃靼海峡は間宮海峡(タタール海峡)の古称。「てふてふ」は蝶々(ちようちよう)の古いかなづかい。生まれて間もない蝶がただ一匹で、海峡を大陸目指して渡っていった。そこに「春」をみた。  
 その様子を墨量を多めに、しかし、重くならないよう、文字の大小・遅速をつけながら、リズムカルに書いてみました。みなさんも、詩のもつイメージを膨らませながら、紙面に独自の「てふてふ」を飛ばしてみてください。

安西冬衛(一八九八〜一九六五)詩人。  
 奈良県生まれ。大陸に渡り、十五年間大陸に在住。北川冬彦らと『世』創刊。『詩と詩論』に拠り、ユーラシア大陸の風景にイメージ豊かな独特の短詩型を開拓した。  
 詩集『軍艦茉莉』他。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

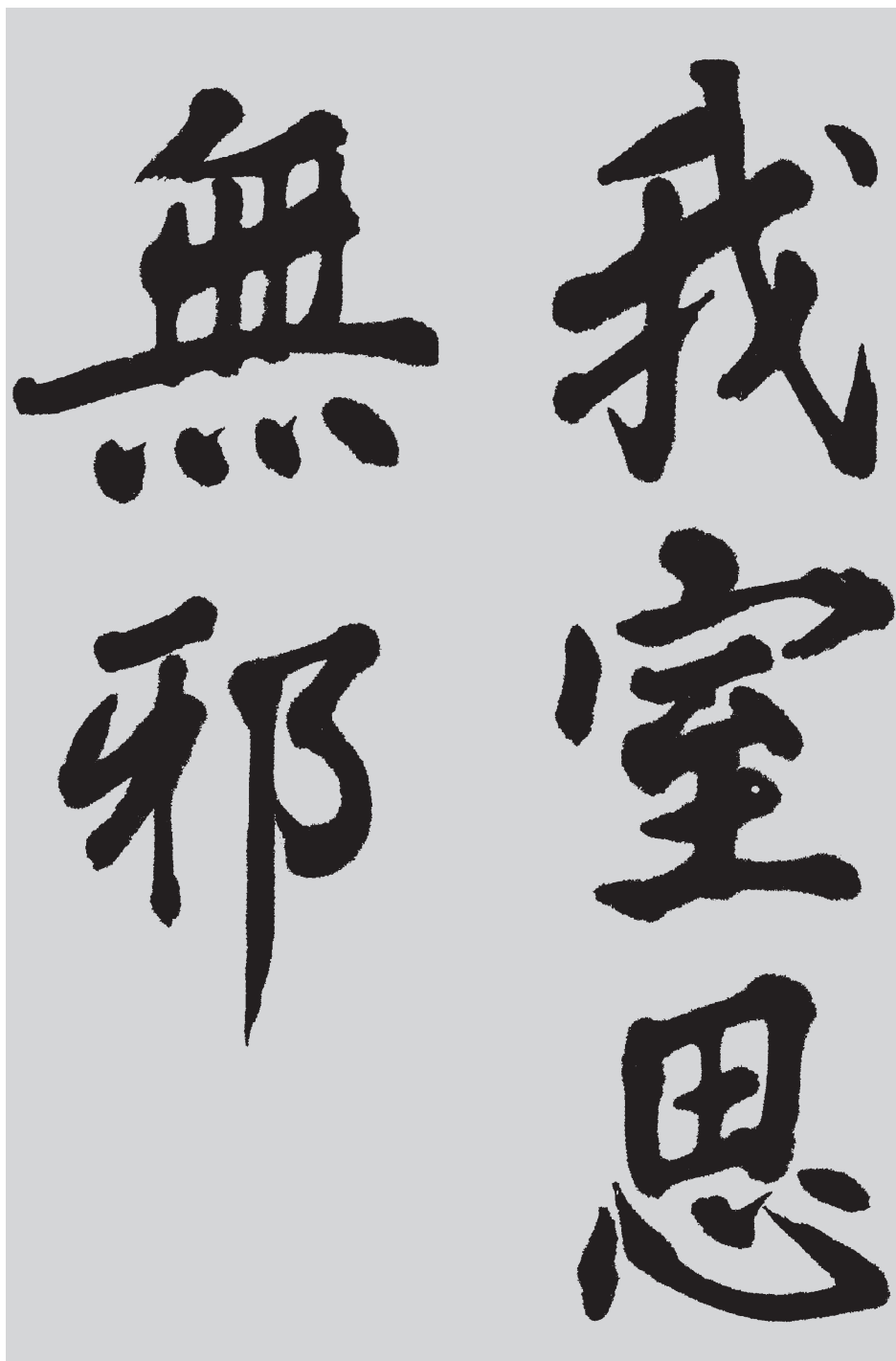
①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

我が室思い邪無し（蘇東坡）  
訳：我すまいには邪念がない。

〈主要画について〉

「我」の第五画、「邪」の末画がこの作  
では主要画。この画は特に「活き」を表  
出されるよう一筆投入して貰いたい。

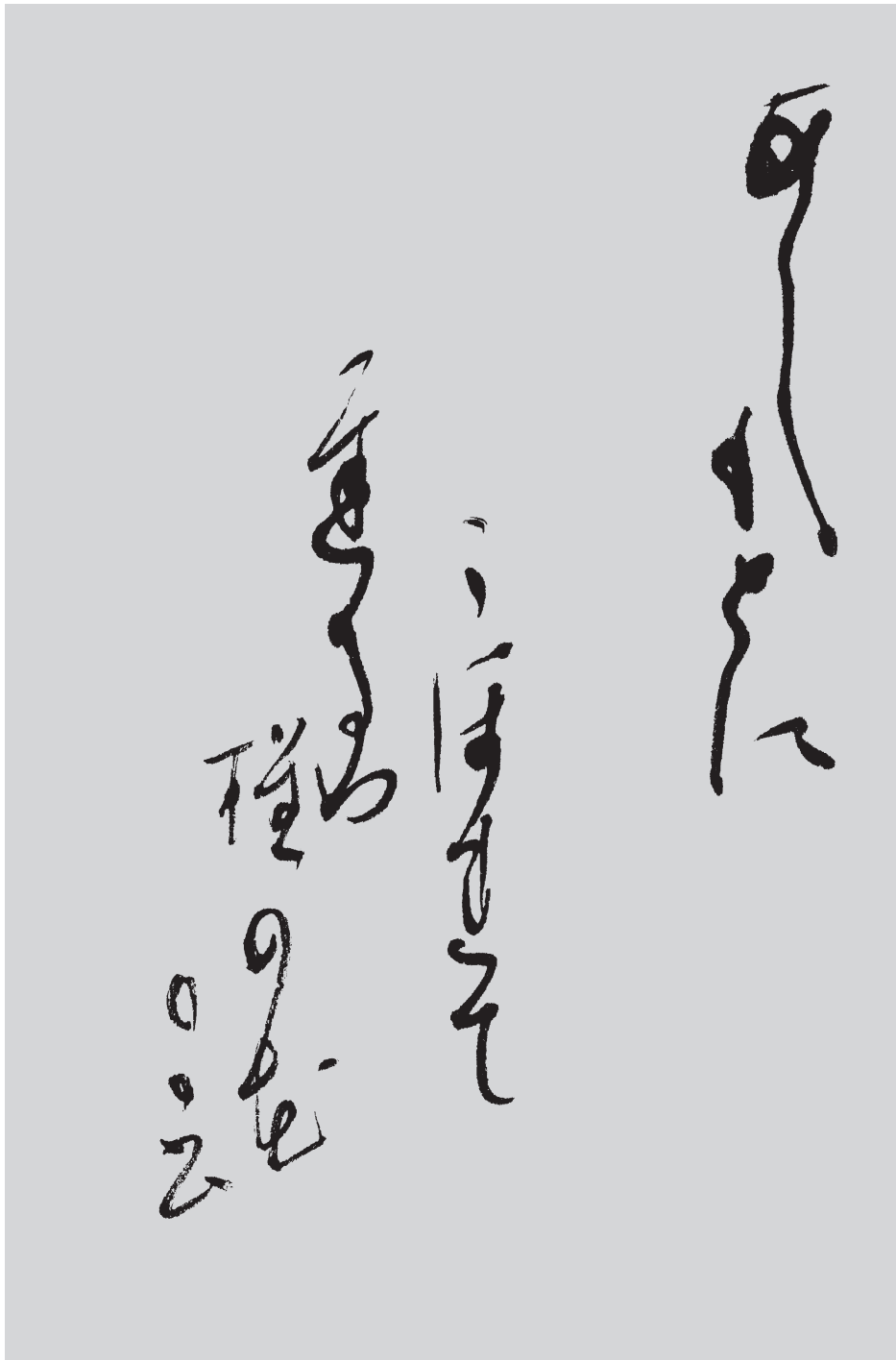


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

足もとにこぼれてちるや椎の花 (李里)  
あしもとにこぼ<sup>れ</sup>て遅<sup>ち</sup>るや椎の花



〈所々味わいの寸時を—〉  
書き出しの「あし」、「し」の表出は華雪先生の持ち味。「も」への意連がポイント。「とに」も強い。「に」の字幅で右群を支える。左群は見所が多い。行頭「こ」「遅」の字場大小の照応。「こ」の放ち書きが注目点。「椎」を「や」に寄せて放ち書き、「の」の末筆を長く伸ばして「花」に連綿、末画点を遠く放ちの締め。

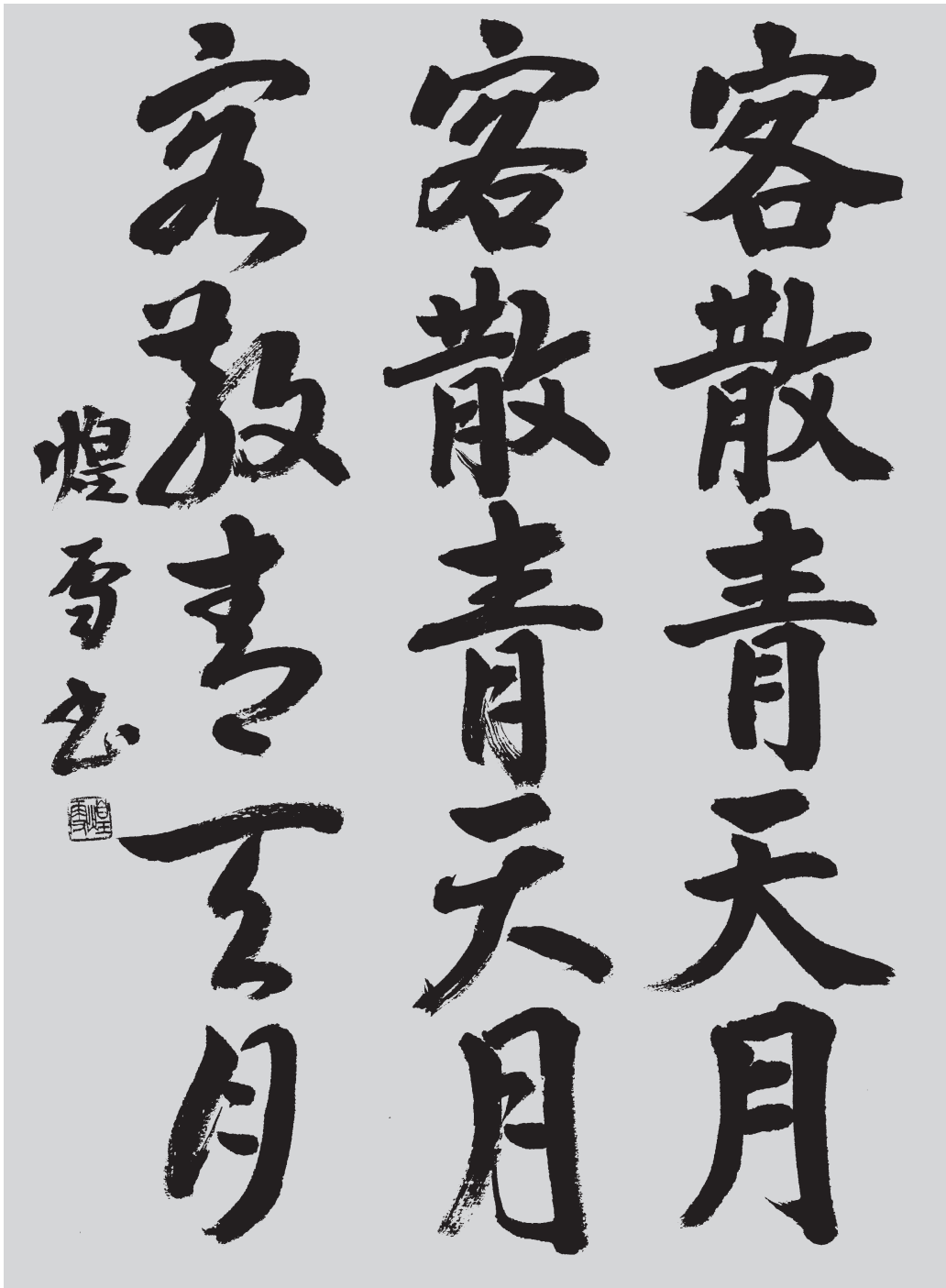
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



星野煌雪先生書

客散青天月（李白）  
客は散ず 青天の月



訳：人々が散りちりになったあと、青い夜空には月だけが輝き、

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。

随 意 部 参 考

石田 愁華 先生 書

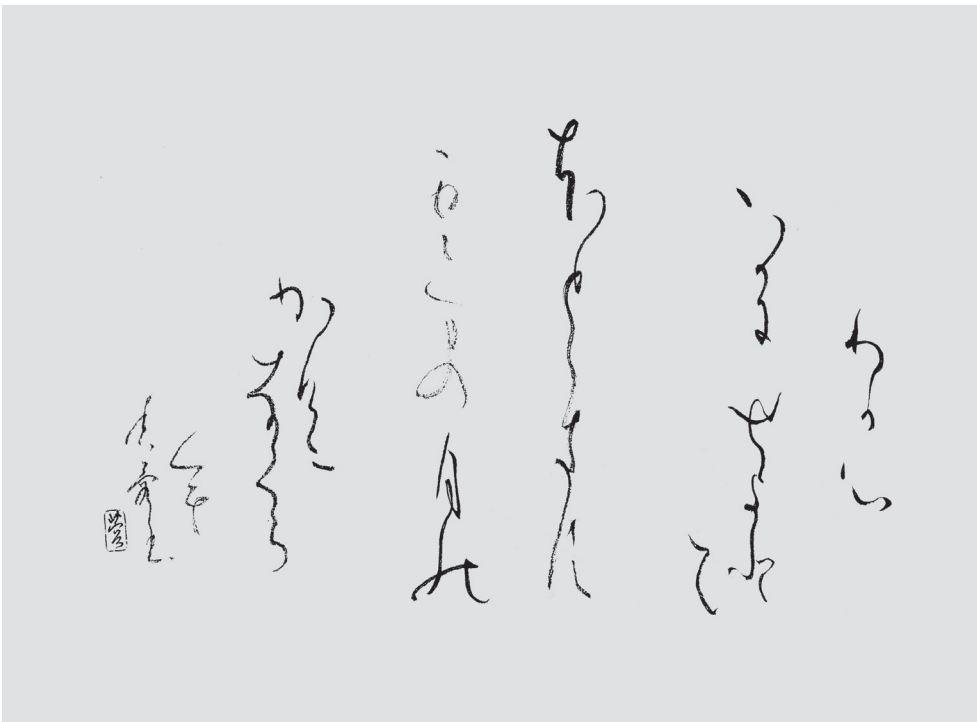
靜者安（沈佺期）  
靜者（沈佺期）は安し。



訳：静かなものはやすらかだとの意。

川上 香蓉 先生 書

わが心（新古今和歌集）いかにせよとてほととぎす雲間の月（新古今和歌集）のかけに鳴くらむ  
わが心（新古今和歌集）い可（新古今和歌集）爾（新古今和歌集）せよ登（新古今和歌集）て本（新古今和歌集）と支（新古今和歌集）須（新古今和歌集）雲（新古今和歌集）万（新古今和歌集）の月能（新古今和歌集）か介（新古今和歌集）二（新古今和歌集）奈（新古今和歌集）久（新古今和歌集）ら（新古今和歌集）牟（新古今和歌集）



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

藤原俊成

湯澤春翠先生書

稲畑暉穂先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

詩の世界は宏大であって、あらゆる  
分野を抱摂する。詩はどんな矛盾をも  
容れ、どんな相剋をも包む。

天幕の破れ目から見ゆる砂漠  
の穴の星、駱駝の鈴の音がする。  
背戸の田圃のぬかるみに映る星、  
寂磨歌が聞える。

課題1 (初段階以上)

天幕の破れ目から見ゆる砂漠の空の  
星、駱駝の鈴の音がする。  
背戸の田圃のぬかるみに映る星、  
磨歌が聞える。

〔星〕寺田寅彦

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段階以下)

詩の世界は宏大であって、あらゆる  
分野を抱摂する。詩はどんな矛盾も  
容れ、どんな相剋をも包む。

〔自分と詩との関係〕高村光太郎